

**保健行政による学校の集団教育への支援**

■支援のポイント

集団教育の側面支援→基本的に学校の自立を促す  
(出前授業等での肩代わりは、継続不可能)  
(チームティーチングまでにとどめる)

- ① エイズ教育担当教諭(保健体育・養護教諭・担任)に対する研修会の実施 (エイズ/性感染症の最新情報の提供)
- ② 学校全体の意識向上のための講演会の実施  
→担当教諭以外の教諭や管理職の理解が得られにくい  
学校全体の予防教育の必要性に対する意識向上

**WYSH プロジェクト**  
Well-being of Youth in Social happiness

平成17年度  
全国中学校エイズ教育推進プログラム



**支援のポイント (ハイリスク)**

■支援のポイント

- ① 支援ニーズの高い生徒がアクセス可能な学外の相談窓口(連絡先)を紹介  
→保健室に行けない生徒も考慮し、集団教育で全員に提示してもらうこと
- ② 保健室(養護教諭)との連携  
リスクの高い、支援ニーズの高い生徒が訪れる機会が多い。  
→学外の相談・検査窓口の紹介、地域医療機関の紹介  
その他、養護教諭の相談に応じる

## 学外での対策（高ニーズ層）

### ■相談事業の充実

- ① 相談事業の充実  
フリーダイヤルの電話相談+メール相談の導入
- ② まちかど相談室（サテライト保健所）  
街中のスペースで常設  
週1-2回、月1回は土日オープン  
若者が気軽に立ち寄れる相談場所の設置  
\*地域の児童委員、市民団体の相談室とのネットワーク

### ■受けやすい検査・治療体制の整備

- ① 受けやすい時間帯の工夫
- ② 性感染症検査や他の一般健康診断とのパッケージング
- ③ 若者が行きやすい医療機関の発掘

## 地方自治体における青少年エイズ対策

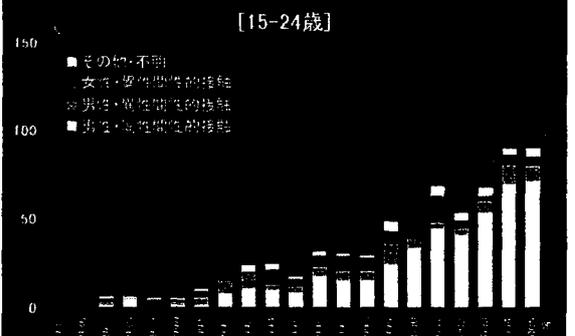
- ・科学的エビデンスに基づいた対策
- ・ポピュレーション戦略：  
地域社会の予防意識の底上げ
- ・ハイリスク戦略：  
高ニーズ層の受け皿の充実

厚生省・重点都道府県エイズ対策担当課長  
連絡協議会  
2006

男性同性間のHIV感染対策に関するガイドライン

市川誠一  
名古屋市立大学看護学部

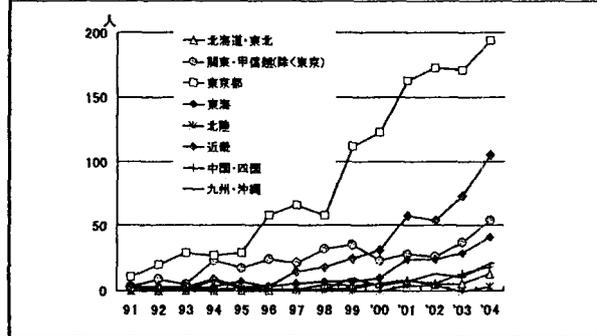
日本国籍HIV感染者年齢・感染経路別年次推移  
厚生労働省エイズ動向年報 2005年末



ここで使用する主な用語

ゲイ: 男性同性愛者(ホモ・オカマは差別用語)  
バイセクシュアル男性: 同性・異性に性的指向を有する両性愛者  
MSM: 男性と性行為を有する男性  
セクシュアリティ: 性的指向(嗜好ではない)を意味する  
セクシュアル・ヘルス:  
「性の健康」、性感染症等の健康問題を性(セックス)の視点から取り組む  
ハッテン場:  
同性愛者が利用する施設で、性的な行為に発展する場合もある  
(サウナ系、公園系、など)  
アウトリーチ: ゲイバー等へ啓発資料を配布する活動  
ベースライン調査: 予防介入をする前に現状やニーズを把握する  
コミュニティペーパー:  
MASH大阪が開発した情報誌で、コミュニティ情報に予防啓発  
のメッセージをくんで、普及させるための資料

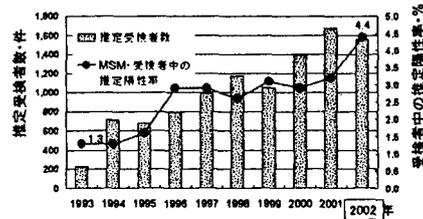
日本国籍男性の同性間HIV感染者の報告地別年次推移  
厚生労働省エイズ発生動向調査(2004年12月31日現在)



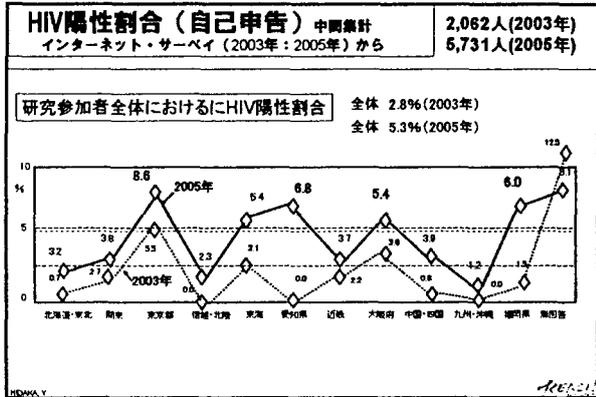
MSMにおけるHIV感染の現状

- HIV感染者報告例の60%強をMSMが占める  
(15-24歳、25-34歳、35-44歳層では70-80%)
- AIDS患者報告例も増加傾向にある
- 大都市部に加え地方都市部でも増加傾向にある
- HIV抗体検査受検者(MSM)の陽性率は、  
東京都南新宿検査・相談室では1.6%→4-5%に上昇  
MSM対象臨時検査では2-3%(2000年、2001年)  
大阪の土曜常設検査では4-5%(2003-2005年)  
名古屋のMSM対象臨時検査では2-3%
- \* MSMにおける梅毒抗体陽性率は15-20%
- コンドーム常用率が低い者は情報や検査行動が低い

東京都南新宿検査・相談室におけるMSM推定受検者数と  
受検者中の推定陽性率(2002年)



\* MSM推定受検者数  
= (質問票のMSM該当数/質問票回収率) + MSM・HIV陽性数



### 誤解を招く啓発内容

正しい知識にフツーの生活  
エイズはこれで予防できます

エイズは怖い病……  
感染経路は  
1 男性同性愛者  
2 感染した人との性行為  
3 汚染された血液/血液製剤の投与  
4 薬物濫用者  
5 感染した母親から子へ

「エイズは怖い病……」という表現は、エイズを「怖い」として恐怖心を煽ることで、正しい知識の伝達を妨げる可能性があります。また、「フツーの生活」という表現は、エイズを「特別な生活」でなければならないという誤解を生む可能性があります。

正しい知識の伝達には、科学的根拠に基づいた正確な情報を提供することが重要です。また、エイズは「怖い」として恐怖心を煽るのではなく、「予防可能な病気」として正しい知識を伝えることが求められます。

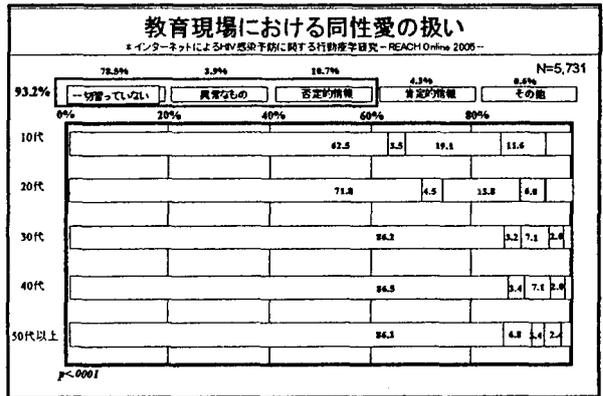
—1987年—

### エイズ発生動向の結果は、男性同性間のHIV感染対策が緊要であることを示している。

- ①男性同性間のHIV感染対策に主眼をおいた施策と事業の実施
- ②男性同性愛者の若年及び青年層へのHIV/性感染症の予防啓発と早期検査・早期治療の促進
- ③男性同性愛者の中高年層へのHIV/性感染症の早期検査・早期治療の促進
- ④HIV陽性者に対する偏見・差別の撤廃、及び治療・相談体制の確立

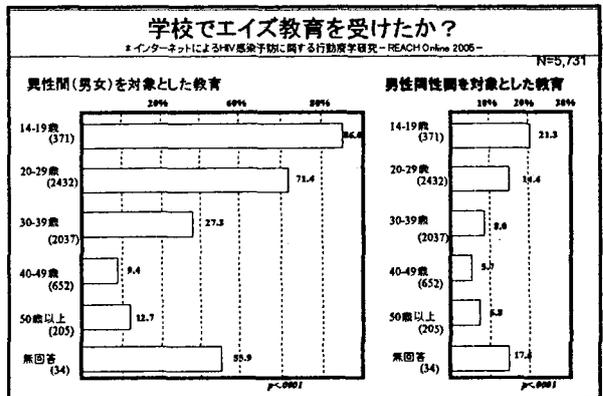
が望まれる。

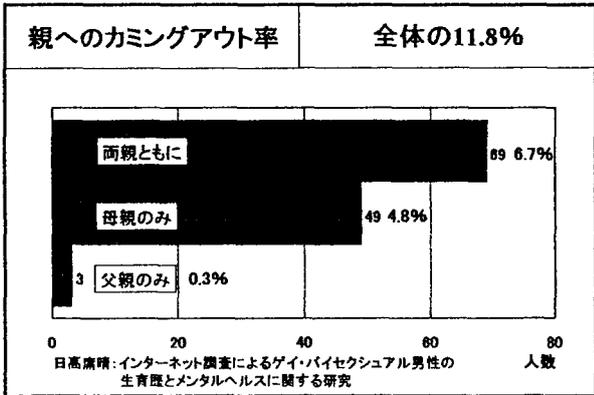
また、これらの取り組みは東京、大阪、名古屋などの大都市に加え、地方都市においても促進する必要がある。



### 男性同性愛者の社会的背景

なぜ、男性同性間でHIV感染が広がったか？

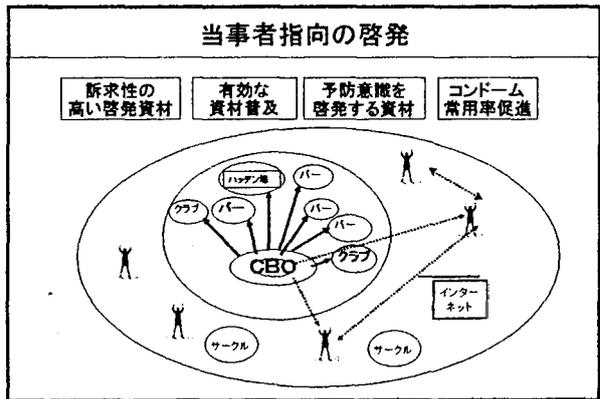




## 男性同性間のHIV感染対策

どのような取り組みが必要か  
厚労省エイズ対策研究事業を例に

- ### MSMの間でHIV/STIが流行してきた背景
- 1) これまでの国民向けエイズ対策はMSMに訴求していない
  - 2) これまでのMSM向けの啓発は資料の開発や普及が十分でなく、効果的なエイズ対策がない
  - 3) 保健所等の無料HIV抗体検査・相談等がMSMに向けて普及されず、また受検者への性感染症予防啓発が十分でない
  - 4) 行政等において同性間対象のHIV感染対策費が計上されにくく、また有効なゲイNGOとの協働連携がない
  - 5) HIV陽性者への偏見・差別、および同性愛者への偏見・差別があり、予防行動、検査行動がとりにくい環境にある



- ### 厚生労働省(2002年) 同性間性的接触におけるエイズ予防対策に関する検討会
- ① MSMに訴求性のある啓発ポスター、パンフレットの製作・普及と広告媒体による啓発
  - ② MSMへのHIV/性感染症予防スキルの提供とその機会の拡大
  - ③ MSMにおけるコンドーム使用と流通の拡大
  - ④ 検査環境の整備と医療機関との連携を挙げ、その取り組みの必要性と方向性を示した。
- また、これらのエイズ予防対策を進めるにあたり、
- ① 当事者に対する偏見等が生じないように配慮すること
  - ② そのためには当事者の事情に詳しいNGO等の協力を得ること
  - ③ そして当事者の意見を反映した啓発資料の作成・普及、及びコンドームの普及、予防スキルの提供が行われること
  - ④ 検査環境の整備が総合的に実践されることが必要であるとしている。

### MSM人口と商業施設(市川推定/2002年)

	全国	関東圏	近畿圏	東海圏	備考
ゲイ・バイ男性推定人口	2,100,000	680,000 東京都 200,000	320,000 大阪 140,000	270,000 名古屋 120,000	* 10-59歳人口の5%として算出 * 木原ら12%
バー店舗数	約1000	480 (都内)	280 (大阪市内)	60 (名古屋)	ゲイ雑誌等から
商業系ハッテン増数	約200	約80 大型店 10	25 大型店 5	7 大型店 3	ゲイ雑誌等から
クラブイベント回/年		約200	約100	約80	関係者から聞き取り
ゲイショップ		約20	9	6 名古屋 3	ゲイ雑誌参照

### HIV感染予防啓発におけるパートナーシップ

#### HIV感染の拡大防止には

- ・訴求性のある啓発資材・手法の展開
- ・MSM層への啓発の浸透
- ・予防啓発活動の効果・評価
- ・有効な啓発の継続と行政施策連携
- ・HIV感染者への支援(共生)



#### 当事者性を重視した啓発資材と普及方法

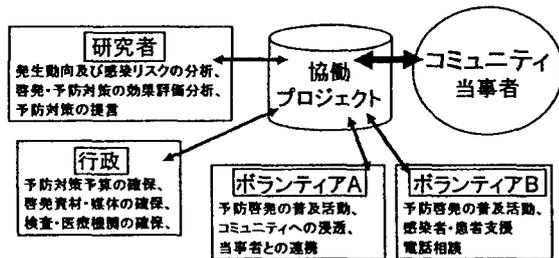
啓発資材の開発とその普及は地域ボランティア(CBO)と協働し、またゲイメディア、ゲイビジネス等の関係者の協力を得つつ普及を促進するネットワークを構築することが必要である。

### 地域における男性同性間のHIV感染対策 自治体で同性間のHIV感染対策を進める上での留意点

- 個人のプライバシー保護を優先する
- ゲイ・コミュニティの潜在性を重視する
- 男性同性愛者の活動を支援する環境(体制)をつくる
- 保健・医療機関における男性同性愛者への受容性を高める
- 保健・医療職者の性的指向への理解と予防・医療支援姿勢の形成を図る
- 男性同性愛者に対して受容性のある社会環境を形成する

同性間のHIV感染対策を推進するための事業予算の計上  
同性間のHIV感染対策を進めるためのCBO活動の予算的支援

### HIV感染流行防止を効果的にするには —行政、研究者、ボランティアの専門性の連携—



### 地域における男性同性間のHIV感染対策

また、上記の留意点に対しては以下の体制と事業が必要である。

- 自治体エイズ担当者、保健・医療・心理職者、教育者、研究者及び地域NGO等で構成する同性間のエイズ対策支援体制を設ける
- 自治体等と当事者あるいはNGOとが連携をはかる「場」(例えば、同性間エイズ検討会)を設置する(適当なNGO等が存在しない場合は、当研究班のゲイNGOや既存NPOの協力を受ける)
- 自治体職員、保健・医療従事者へのセクシュアリティ及びエイズ対策に関する研修を実施する
- 養護・教育職者に対するセクシュアリティ及びエイズ対策に関する研修を実施する

### 啓発は？

・知識の普及・・・意識の向上・・・行動の変容

- ・誰に、何を、どのようにして、
- ・いつから、誰が、どこで
- ・対象層を明確に
- ・対象層のニーズに適した内容で
- ・Sexual Health (性の健康性)

当事者の  
言葉  
と  
アイデア

・啓発の評価と改善

啓発の目標、啓発の記録、観察、評価、見直し

### 地域における男性同性間のHIV感染対策

- 保健所等の公的HIV検査機関においては
  - ・受検者の意思で検査を受け、その情報を自らの健康に役立て、より安全な行動につながるよう支援する
  - ・受検者に利便性の高い検査を提供する(平日日中に加え夜間・休日検査の導入)
  - ・梅毒を始めとする性感染症の検査機会を提供する
  - ・HIV/性感染症検査の陽性者が自らの意志で医療機関を選択し、適切な医療が受けられるよう関係機関を確保し連携を進める
  - ・受検者の性的指向に関わらず、受検者のニーズに合った情報提供、相談、カウンセリングを提供する

### 大都市における男性同性間のHIV感染対策について

- ①HIV/性感染症の予防や医療に関する啓発のニーズがあることをコミュニティに広める
- ②情報の入手や行動変容を起こしやすい環境を構築する
- ③HIV/性感染症関連の情報や予防のスキル等に関するワークショップを設定し個人の意識・行動を支援する環境を構築する
- ④そして、HIV感染のリスクやそれに伴う不安等に対する相談、検査、医療など自身の健康管理を支援する環境を構築する

東京都南新宿検査・相談室のMSM受検者中のHIV陽性者割合は5%と推定され、大阪の土曜日常設HIV抗体検査においても同様であることが報告されている。このことから、MSMにおけるHIV感染状況は必ずしも楽観視できるとは言えず、検査環境のみならずHIV陽性者の増加に伴う医療環境の整備と充実を図ることが必要である。

### 福岡：地方都市のコミュニティ、行政、医療機関の連携

- (1) 福岡県エイズカウンセリング研修会  
医療と行政による検査相談事業の環境改善を目的とした多職種による講義とRPの研修会の開催し、セクシャリティ理解を含めた検査環境改善、検査アクセスの改善を目指した。
- (2) 保健所（保健福祉センター）との協働  
検査課程見学、保健所職員との面談  
受検課程についての意見交換  
この情報をコミュニティペーパーにて広報し、受検行動を促す



### 大都市における男性同性間のHIV感染対策について

- 都府県・市及びびゲインGO等で構成する同性間エイズ検討会の設置  
・地域でのHIV感染対策のニーズ査定、行動計画の立案、実施体制と予算構築、アウトプット・アウトカムの評価などを行う
- 近隣の自治体(県・府・市)との合同HIV感染対策協議会の設置  
・東京、名古屋、大阪近隣の自治体でも同性間のHIV感染者報告数は増加しており、これらの自治体のHIV感染対策との連携が必要である
- 財団法人エイズ予防財団事業の啓発活動拠点・コミュニティセンター運営への参加と予防対策への活用(対策事業としての予算化)
- MSM受検者に利便性の高い検査を提供する(平日の検査に加え夜間・休日検査を導入し、梅毒を始めとする性感染症の検査機会も提供する)
- HIV/性感染症検査陽性者が自らの意志で医療機関を選択し、適切な医療が受けられるよう関係機関を確保し連携を進める

### 男性同性間のHIV感染対策事業

#### コミュニティセンター(啓発活動拠点)

- ・MSM対象の啓発活動(資料開発、普及、人材確保)の拠点
- ・コミュニティセンター機能によりコミュニティ意識の形成化
- ・MSMのエイズ対策として有効なプログラムの実施
- ・予防介入専門スタッフの確保と育成(啓発の持続)

“akta” “dista” “rise(旧3N)”



### 地方都市における男性同性間のHIV感染対策について

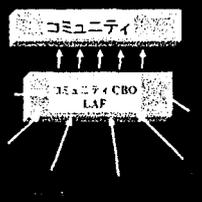
地方の出身者が多いこと、それに伴うプライバシーの問題、コミュニティの未成熟性など幾つかの問題を抱えており、また当事者参加型の予防啓発活動は存在せず、コミュニティに対して有効な予防介入が行われているとは言えない。

#### ○福岡の例

当事者主体による啓発を開始するため、まず協力体制として行政、医療機関、研究者などの支援組織「福岡セクシュアルヘルス対策懇談会」を立ち上げ、

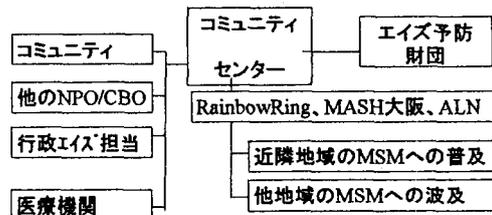
支援体制を確立した上で、福岡のゲイ・コミュニティにおける当事者主体の啓発活動を行うNGO・Love Act Fukuoka(LAF)を結成した。

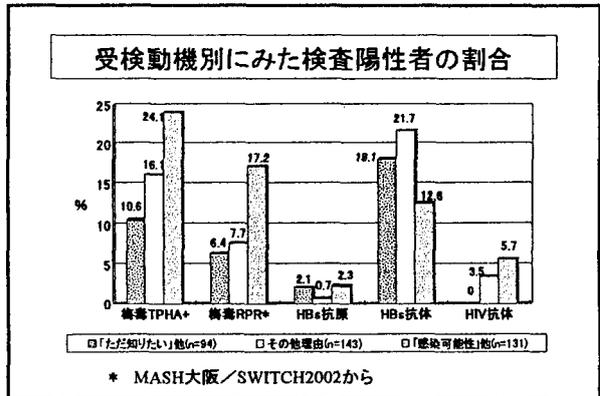
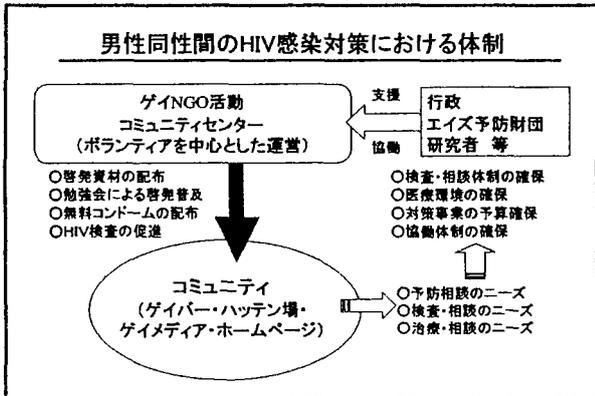
#### 福岡市セクシュアルヘルス対策懇談会



### コミュニティセンターの活用

・ 対策を進めるには様々な連携が必要 ・





### MSMにおけるHIV感染予防介入事例(MASH大阪)

1997年: 大阪府エイズ担当者と疫学研究班でエイズ発生動向の協議  
 1998年: 大阪府にてエイズ担当者・ゲイでエイズ電話相談をしていた  
 当事者・疫学研究班で合同ミーティング→MASH大阪設立  
 1999年: ベースライン調査(情報源、知識、性行動、検査行動等)  
 ニーズアセスメントと予防介入の方法の検討

- ・過去1年のHIV検査受検率は19%と低い
- ・不特定相手より特定相手とがコンドーム使用行動は低い
- ・コンドーム常用率が低い者は情報や検査行動が低い
- ・保健所のHIV無料検査を知っているが場所を知らない
- ・夜間検査のあることや場所を知らないものが多い
- ・性感染症とHIV感染の相乗効果を知らないものが多い

目標の設定: 検査受検率を10%向上、コンドーム常用率を5-10%向上、  
性感染症の知識を普及させる

### HIV抗体検査・SWITCH-Bの内容

検査の広報  
受付...受検番号配布  
ガイダンス...検査の流れと意味を説明  
自記式質問票調査  
リスクアセスメント、受検者属性  
検査前予防相談  
知識、意識、予防行動の確認  
検査のインフォームド・コンセント  
ウィンド期、検査結果等の説明と受検の確認  
採血/HIV/B型肝炎/梅毒の検査

翌日: 結果告知の受付

検査結果の告知  
リスク軽減への相談  
HIV/STD医療機関紹介  
専門カウンセリング

フォローアップ電話相談  
期間後の結果通知  
紹介医療機関への受診確認

この検査体制は現在の大阪市土曜常設検査に活用されている  
(主要スタッフの殆どがSWITCH経験者)

### MASH大阪の MSM対象のHIV・STI相談検査

**SWITCH2000**  
Switch your mind  
Switch your action

- Art: Gay Art Holidays
- Blood: HIV/STD検査と予防相談
- Community: コミュニティー向け HIV・STD講習会
- Dance: AIDS Benefit Dance

HIV/AIDSをはじめとした様々な  
STDの予防啓発とコミュニティの  
活性化を目的とした複合型イベント

結果を待つのは...

検査の結果を待つのは、不安な時間です。MASH大阪では、検査結果の告知だけでなく、リスク軽減への相談や、HIV/STD医療機関の紹介、専門カウンセリングを行っています。また、検査後のフォローアップ電話相談や、期間後の結果通知、紹介医療機関への受診確認も提供しています。

### 2002年~のMASH大阪の予防介入PRG コンドーム大作戦Part II コミュニティ・ペーパーによる情報普及 アウトリーチ活動による普及活動

#### 大阪のゲイタウン 大阪にはゲイタウンはありますか?

商業施設数は?

- 堂山 ハンパース料 ハッペン場10軒 ショップ5軒
- ミナミ パー 30軒 ハッペン場10軒 ショップ5軒
- 新世界 ハー 30軒 ハッペン場5軒

MSM人口は?

- 堂山を代表する……3万人
- 大阪府内で最も多い……10万人
- 大阪府内で最も多い……10万人
- 堂山を代表するMSMの人数は……10万人を想定すると計算して
- パー150軒に20人ずつ……3000人
- サウナ2軒に……500人
- ハッペン場10軒に……500人

### 大阪地域の予防対策研究:コミュニティペーパー・2003-

コミュニティニュース  
Sex and Life +  
Salt+ #01  
2003/  
Jan-Feb  
MASH大阪

Salt+ #07  
2003/Jul-Aug

### コミュニティレベルのプログラム実施 コンドーム大作戦Part II

堂山地区におけるコンドームフレゼンスを高める

- ・ショップ・メイト・カルと共同でコンドームセット販売
- ・アーティストと共同でコンドームは愛を繋ぐ
- ・アウトリーチのためのコミュニティを組織
- ・バーに設置するコンドーム配布

目標: 2002年度中に5万枚配布、利用率12%、60%

### 男性同性間のHIV感染対策 大阪

クライアント・コミュニティ

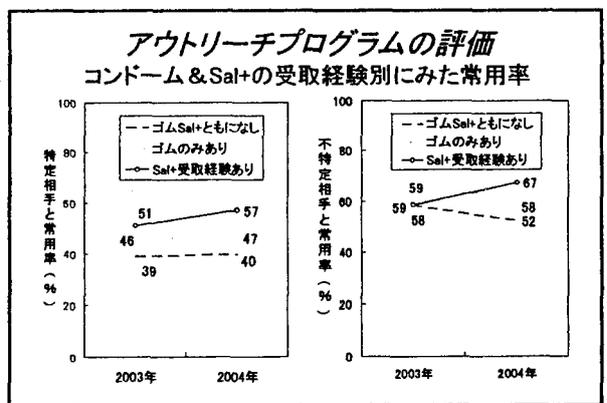
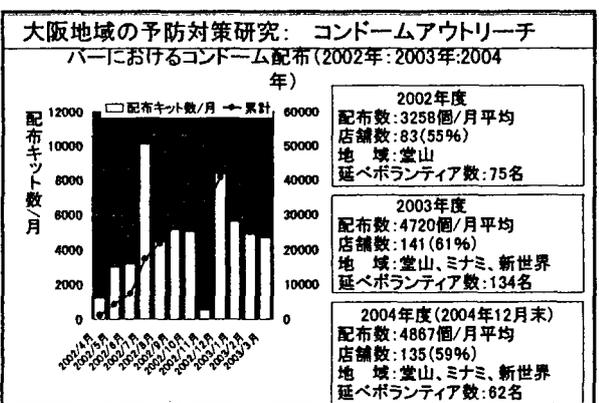
プログラム

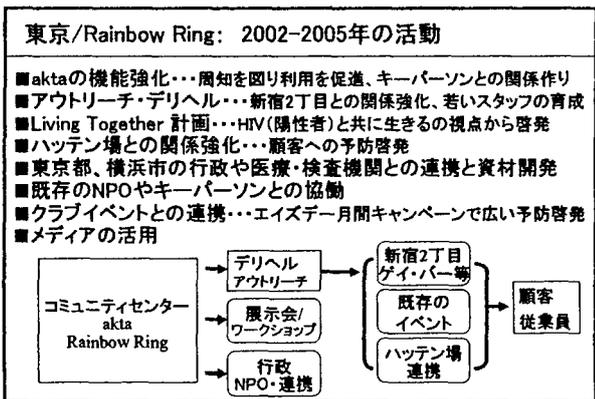
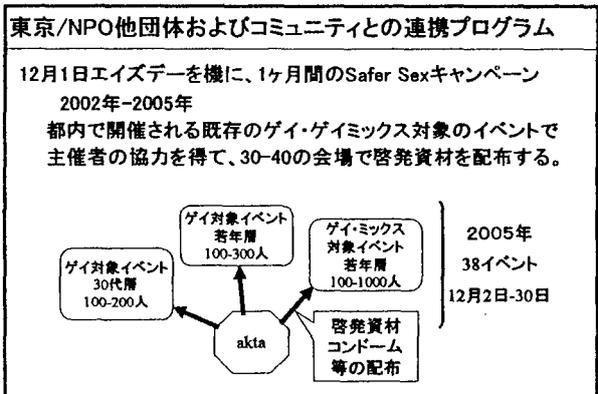
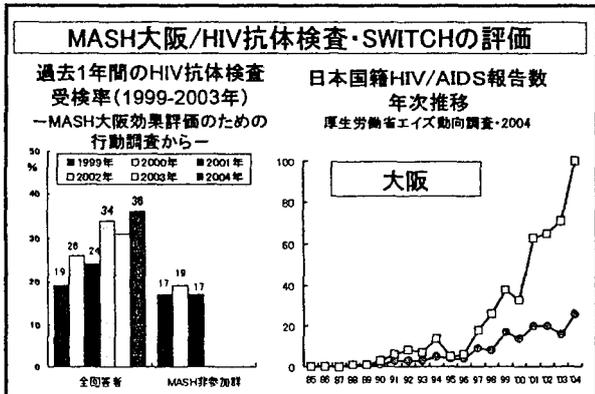
- DISTA関連コミュニティプログラム
- ゲイタウンデビュー支援プログラム
- コンドームキット配布
- 啓発資料配布
- STI勉強会
- ハッペン場オーナー研修会
- コミュニティ情報紙配布
- 秋祭・予防啓発イベントの開催(大阪市共同)
- ホームページ

アウトリーチ: ホームページ | トロアインセンター | ホランティア

MASH大阪/ドロアインセンター dista

行政担当者 | エイズ予防協会 | 医学研究者





### コミュニティセンターakta: 展示会、ワークショップ

- ・HIVは、まだまだ他人事、という認識
- ・自分の力でaktaに辿り着ける人(探索能力のある人)よりむしろ、無関心層を呼び込む事が必要 ⇒ 展示会

### 東京地域の予防対策研究: デリヘルプロジェクト

目的: 新宿や従業員を/STIを患う環境をつ

アウトリーチ実績  
 毎週金曜日6-10名のスタッフ  
 19時からおよそ2時間の活動

コンドーム+他の啓発資材  
 124店舗→142店舗 (250店舗中)  
 消費分を補充する  
 1800個/月、250個/店舗(2003年時)  
 1年半でおおよそ 9万個 のアウトリーチ

Rainbow R  
 ・僕らの街ニそんなコト

デリヘルボーイは、ゲイ雑誌で特集を組まれるなど注目を集め、認知されている。

### Living Together 計画

LT計画の広報フライヤー

LT計画(LT Lounge)